

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991000126		
法人名	社会福祉法人 京福会		
事業所名	グループホーム ほのほの		
所在地	栃木県大田原市蛭田1795		
自己評価作成日	平成23年9月14日	評価結果市町村受理日	平成24年1月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=09">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=09</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成23年12月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームほのほのは周囲を田畑に囲まれ、静かな環境の中にある施設です。棟続きでデイサービスも併設されている事もあり、利用者様同士の行き来も盛んに行われています。近隣に小学校や保育園もあり、様々な行事の際に参加させて頂いています。今後も地域の行事等に積極的に参加し、このような交流を通じて、当グループホームを認知して頂き、地域とのより良い関係を構築していきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは周辺に田園地帯が広がる市南部にあり、小学校に隣接している閑静な場所に位置している。ホームでは地域との関係を重視しており、近隣の小学校の児童が歌などを披露しにホームを訪問したり、学校行事に招待されるなどの交流がある。また、近くの保育園とも交流があり、保育園を訪問し園児の遊戯などを鑑賞している。運営推進会議では自治会役員や民生委員から地域の情報の提供や各種の助言を得ている。今年度から消防訓練に地域の方が参加し、非常時の連絡網にも入ってもらうなどの連携が図られている。さらに、地元社協主催のふくし祭りの際にパンフレットを置いて地域の人たちにPRしたいと考えている。同じ敷地内にはデイサービスが併置されており、デイサービスを利用している友人との交流を援助するなど馴染みの関係が継続することを支援しているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほほ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほほ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほほ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほほ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほほ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様それぞれの幸福を追求し、ご本人の意思を尊重した介護を目指す。全ての入居者様と職員が、共に居心地の良い空間を作り上げていく事を理念とする。	理念の唱和はあえて行っていないが、当ホームの立ち上げの際に職員達が考えた「入居者本人の幸福や意思を尊重する」旨の基本理念が台所等に掲示しており、職員一人ひとりが確認して毎日のケアに当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流とは言えないが、近くの小学校や保育園との交流をもっている。	近隣の小学校の児童が来て演奏や歌を披露してくれたり、運動会や学習発表会に招待され訪問している。また、保育園へ訪問し遊戯を見学するなど交流がある。自治会にも加入しており、当ホームの避難訓練に参加して頂いたり、野菜を頂くなど地域との交流は活発である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	前年度は認知症サポーター養成講座を開講できたが、今年度は行っていない。検討していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議を行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	入居者や家族、市担当者、地域包括支援センター職員、地域の自治会役員、民生委員、駐在の警察官などが主な構成員だが、随時、地元の消防団の出席もある。議題は入居者の状況や行事の報告が主な議題だが、空き巣防止や交通事故などの話し合いを行い、その結果を毎日のケアに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で意見交換を行い、協力関係を築くようにしている。	市担当者や地域包括支援センター職員に運営推進会議に出席してもらい、介護保険やケアについての情報や助言を貰っている。また、わからない事などがあればその都度指導を得るなど、市との関係は良好である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。	同法人の特別養護老人ホームで主催する身体拘束に関する学習会に参加し、職員一人ひとりが身体拘束をしないケアについて確認している。また、ことばによる拘束は難しい問題だが、言葉遣いについては、管理者が職員をその都度指導している。なお、昼間は玄関は施錠していない。	

グループホームほのぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に努められている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	時々学びの機会はあるが、活用する様な場面がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な説明を行い、不安な点や疑問点が生じた場合は言って下さいと伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では入居者様、ご家族様代表の方に出席して頂き、ご意見を頂いている。	家族が面会や利用料の支払いに来た時や年2回の家族等が参加する行事の際に入居者の食事や排泄などの状況を話し、その際に要望を聞いている。また、運営推進会議でも要望や意見を聞くようにしており、それらの意見や要望等は日々のケアに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ワーカー会議や職員会議を行っているが、運営に関する意見は出ていない。	当ホームには職員で構成するレクリエーション、清掃美化、学習などの委員会があり、そこから各種の提案が出されて運営に役立っている。消防訓練に参加した地元の方との芋煮会の開催などの提案もなされ、実施された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境、条件の整備に努められていると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は毎月行っている。認知症実践者研修等もすすんで受講していきたい。		

グループホームほのぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス部会等の勉強会でサービスの質の向上を目的とした取り組みを行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	要望等に耳を傾け、安心して過していただける様に努めている。また、ご家族の方ともきちんと相談して決めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安な事や分からない事がある時には言ってお下されいと伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その様に努めているが、他のサービスを利用している方はいない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築けていると思う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用料金を現金払いにして、最低月に1度は入居者様の顔を見て頂ける様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設施設のデイサービスを利用している方(昔から顔馴染み)との交流を行っている。また、外出の機会等に馴染みの所へ行ける様な機会を作っていきたい。	入居時に、本人がこれまでどんな生活を過ごしていたのかや馴染みの場所を聞いている。また、併設のデイサービスに友人がいる場合にはゲーム・交流等を行い、顔馴染みの関係が継続できるように支援している。今後は、墓参り等の個人的な希望にも添えるようにしたいと考えている。	

グループホームほのぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できていると思う。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談、支援に努めていきたいと思うが、今のところ相談はない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望、意向の把握に努めている。把握が困難な場合はご家族様と相談し、できるだけ本人本位になる様に努めている。	外出したい、外食したい、歌番組が見たい、塗り絵がしたいなどの意思表示ができる入居者にはそのように支援しているが、意思表示ができない方については家族と職員で相談しながら思いを推定して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前に、ご家族やご本人に聞き把握に努めている。また入居後も必要に応じてご家族やご本人に確認をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の食事や入浴、排泄などを把握し、ご本人の現状把握に努めている。また、それぞれに合った過ごし方ができる様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即した介護計画ができる様に努力している。	本人や家族と話し合い、ニーズに添うような介護計画を作成している。居室担当者を決め、職員全員で6か月毎にカンファレンスを行い、見直しをしている。また、入居者の状態が変化した時にはその都度見直し、現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のワーカー会議で入居者様それぞれの現状について話し合い、介護の実践や計画の見直しに活かしている。また、細かい点は連絡ノートを活用し、始業前に読み情報の共有化を図っている。		

グループホームほのぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいると思う。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握は今後も努力が必要だが、安全で豊かな暮らしを楽しめる様な努力はしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入居者様とご家族様に決めて頂いている。適切な医療を受けられる様に支援していきたい。	入居時に、かかりつけ医を当ホームの協力医療機関に変更する入居者が殆どであり、通院する場合は職員が随行し医師へ日常生活の説明をするなどの支援をしている。なお、皮膚科や歯医者などは家族に対応をお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデイサービスの看護師と相談し、適切な受診や看護を受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時や受診時に情報交換、相談を行い、病院関係者との関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に入居者様、ご家族と話し合い、方針を決めている。	敷地内のデイサービスに看護師がおり、入居者に何かあった場合は対応できる体制になっている。胃ろうやIVHなどで寝たきりなどの重度化になった場合は協力医療機関に入院し、その後の対応は家族と相談することになると契約時に説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行える様に、今後検討していきたい。		

グループホームほのぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練を行っている。今後は地域との協力体制を築いていきたい。	年2回の消防訓練のうち、1回は地域の人たちに参加して貰っており、今後も継続する意向である。また、連絡網に地域の人たちにも入って貰い夜間の職員の負担軽減になっている。備蓄は水や米、缶詰などの食料を用意している。	今後は、年2回の消防訓練以外にも、職員一人ひとりが火災などの非常用機器を十分運用できる訓練の機会を設けることを期待したい。さらに、大地震などによる停電などに備え、職員や家族間の連絡方法を事前に話しあっておくことも期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々気を付けながら言葉掛け、対応をしている。	「苗字+さん」でお呼びすることを基本としている。先輩である入居者を尊重し、友達のような言葉使いにならないように職員間で注意している。また、食事介助の際にも目線が合うようにするなど十分配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できていると思う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間、食事時間など入居者様のペースを把握し、ご本人の希望に添って支援できる様に努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容や着る服も相談している。意思の把握が困難な方も毎日同じ服にならない様に気を付けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備はできるだけそうしているが、全員はできない。休み時間の関係上、摂取に関しては一緒には行っていない。また、現在は一緒に摂取する事は考えていない。	職員の勤務体制に合わせて食事当番を決めており、献立もその職員が法人内の栄養士と相談し作成しているが、入居者の好みを優先している。入居者には食器拭きや野菜の皮むきをお願いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	できている。		

グループホームほのぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の排泄パターンを把握し、適切な声掛けを行い、なるべくおむつを外せる様に努力している。	個人の排泄チェック表を作成・利用し個々の生活を見ながら声かけをして、トイレでの排泄を促している。また、リハビリパンツ・パットを使用している入居者も多いが排泄の自立にむけて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけではなく、野菜ジュースを飲む、運動を促す、腹部マッサージを行う等、個々に応じた予防を考えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日によって決まってはいるが、希望があった場合は柔軟に対応したい。	週3回、午後に入浴できる体制で実施している。一人の入居者に対して一人の職員で対応しており、平均して30分～40分入浴しており、季節によっては柚子湯にするなど入浴を楽しむ工夫をしている。なお、同性による介助を希望する場合はそのように対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の体調やご本人の希望により、休める様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在服薬中の薬の一覧表を各自確認している。副作用に関しては、もっと勉強が必要だと思う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を干したり、たたんだり、掃除などを手伝って頂いている。ご本人の希望で塗り絵をしたり、楽しみの機会を設ける努力をしている。		



グループホームほのぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外出できているとは言い難いが、出かける時は入居者様の希望に添った外出ができる様に努力している。	一人ひとりの誕生日に希望する外出先を聞いて、買い物や食事などの要望に対応している。高齢の入居者が多く遠出は困難であるが、法人内の夏祭りへの参加や市内の花火大会、花見などに出かけている。また、温かい日には近所に散歩に行くなどの支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は職員側が預っているが、外出の際などはご本人で支払ができる様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある入居者様にはしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃には気を付けている。もっと季節感を取り入れた空間を作れる様に努力していきたい。	玄関・居間・浴室・トイレ等は不快な臭いや混乱を招くような光・音等も感じられず、室温も空調管理され、適度な環境づくりがなされている。手作りのカレンダーが飾られ、季節感を感じられるような工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	話の合う入居者様同士、それぞれ過されていると思う。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際には、使い慣れた物を持って来て頂ける様に伝えている。	ベットはレンタルで対応しているが、タンス・布団類・衣類・洗面用具・食器等は使い慣れた物を持ち込み、使用している。また、つっぱり棒を使ってハンガーとして使用するなどの工夫をし、快適に過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの残存能力を維持、向上できるように努めている。		